

項目	内容
名称	バターバー、西洋フキ [英]Butterbur [学名]Petasites hybridus
概要	<p>バターバーは、ヨーロッパ全域に分布する、高さ1 mになる多年草である。大型の穂状花序中に淡桃紫色の花をつける。地上部は夏に、根は春から秋に採取される。肝毒性などのおそれがあるピロリジジンアルカロイドを含む。ピロリジジンアルカロイドを除去した製品でも肝機能障害が報告されたため、ヨーロッパ諸国ではバターバー製品は承認されていないか、制限されている。欧州評議会のカテゴリーでは「食品では使用されない」とされている。</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分</p> <p>「専ら医薬品として使用される成分本質 (原材料)」にも「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」にも該当しない。</p> <p>■ 海外情報</p> <p>・ 欧州評議会 (Council of Europe) のカテゴリーでは「食品では使用されない」 (not used in food) とされている。</p>
成分の特性・品質	

主な成分・性質	・セスキテルペン化合物 (ペタシン (petasin) とイソペタシン (isopetasin))、セスキテルペンラクトン、揮発油、ペクチン、ピロリジジンアルカロイド (pyrrolizidine alkaloids) を含む (33)。根はイヌリンを含む (33)。
分析法	・酵素免疫測定法 (EIA) により、葉に含まれるアルカロイドを測定した報告がある (PMID:8693043)。
有効性	
ヒトでの評価	循環器・呼吸器 調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓 調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌 調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器 調べた文献の中に見当たらない。
脳・神経・感覚器	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片頭痛のある60名 (試験群33名、ドイツ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、バターバーの成分を含む特定の製剤 (ペタシンおよびイソペタシンを15%含み、ピロリジジンアルカロイドは含まない) 100 mg/日を12週間摂取させたところ、片頭痛の頻度、強度、持続期間が軽減した (PMID:11020030) (PMID:14752215)。 ・片頭痛のある202名 (18~65歳、試験群139名、ドイツ) を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、バターバー抽出物50 mgまたは75 mgを2回/日、4ヶ月間摂取させたところ、75 mg摂取させた場合でのみ、片頭痛の回数が減少した (PMID:15623680)。
免疫・がん・炎症	<p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー性鼻炎患者330名を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、バターバー抽出物 (総ペタシンとして8 mg、3回/日)、またはフェキソフェナジン (アレルギー治療薬:P糖タンパク質基質) を摂取させたところ、バターバー抽出物はフェキソフェナジンと同等の効果が認められた (PMID:16114089)。 ・花粉症患者125名 (試験群61名、平均39歳、ドイツ、スイス) を対象とした二重盲検無作為化比較試験において、バターバー抽出物 (総ペタシンとして8 mg、4回/日)、またはセチリジン (アレルギー治療薬) を2週間摂取させたところ、セチリジンと同等の効果が認められ、鎮静等の有害事象は少なかった (PMID:11799030)。 ・アレルギー性鼻炎患者35名 (スコットランド) を対象とした二重盲検無作為化クロスオーバープラセボ対照試験においてバターバー抽出物50 mgを2回/日、2週間摂取させたところ、影響は認められなかった (PMID:15281472)。 ・アトピー患者20名 (平均42±2歳、スコットランド) を対象とした二重盲検無作為化クロスオーバープラセボ対照試験において、ヒスタミン炎症反応、皮膚炎症反応に影響は認められなかった (PMID:14989395)。 ・健康な成人10名 (20~63歳、スイス) および季節性アレルギー鼻炎 (草花粉またはセイヨウトネリコ (ash tree) 花粉による) の成人8名 (28~59歳、スイス) を対象とした二重盲検無作為化クロスオーバー試験において、バターバー抽出物を含む特定の製剤 (ペタシンを8 mg/錠含む) を2錠またはacrivastine (短時間作用型の抗

ヒスタミン剤) 16 mgを摂取させ、その15分前と90分後にコデイン、ヒスタミン、メサコリン、花粉 (牧草またはセイヨウトネリコ アレルギー患者のみ) によるプリックテストを実施したところ、バターバー抽出物は膨疹反応に影響は認められなかった (PMID:16784008)。

骨・筋肉 調べた文献の中に見当たらない。

発育・成長 調べた文献の中に見当たらない。

肥満 調べた文献の中に見当たらない。

その他 調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- [\(PMID:11799030\) BMJ. 2002 Jan 19;324\(7330\):144-6.](#)
- [\(PMID:12188041\) Int Immunopharmacol. 2002 Jun;2\(7\):997-1006.](#)
- [\(PMID:12859442\) Clin Exp Allergy. 2003 Jul;33\(7\):882-6.](#)
- [\(PMID:14752215\) Eur Neurol. 2004;51\(2\):89-97.](#)
- [\(PMID:12927933\) J Hepatol. 2003 Sep;39\(3\):437-46.](#)
- [\(PMID:12864764\) Headache. 2003 Jan;43\(1\):76-8.](#)
- [\(PMID:15649625\) Toxicol Lett. 2005 Mar 15;155\(3\):411-20.](#)
- [\(PMID:8693043\) Planta Med. 1996 Jun;62\(3\):267-71.](#)
- [\(PMID:15623680\) Neurology. 2004 28;63\(12\):2240-4.](#)
- [\(PMID:16114089\) Phytother Res. 2005;19\(6\):530-7.](#)
- [\(PMID:15281472\) Ann Allergy Asthma Immunol. 2004;93\(1\):56-60.](#)
- [\(PMID:15649625\) Toxicol Lett. 2005 Mar 15;155\(3\):411-20.](#)
- [\(PMID:11020030\) Int J Clin Pharmacol Ther 2000;38:430-5.](#)
- [\(PMID:14989395\) Ann Allergy Asthma Immunol. 2004 92\(2\):250-4.](#)
- (58) The Complete German Commission E Monographs
- [\(PMID:7700976\) Pharmazie. 1995 Feb;50\(2\):83-98.](#)
- [\(PMID:11020030\) Int J Clin Pharmacol Ther 2000;38:430-5.](#)
- [\(101\) 英国MHRAウェブページ \(2012年1月27日\)](#)
- (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)
- (33) 世界薬用植物百科事典 誠文堂新光社 A.シェヴァリエ
- [\(PMID:16784008\) J Investig Allergol Clin Immunol. 2006;16\(3\):156-61.](#)
- [\(PMID:19770483\) Toxicol Sci. 2009 Dec;112\(2\):507-20.](#)
- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳
- (81) Herbal Medicines Forth edition (Pharmaceutical Press)